

学校と社会をつなぐ探究の時間

ミルクタイムは「新聞を使った探究の時間」です。新聞記事から得られる情報や仲間の考えをもとに新しい気づきや学びを得るとともに、自分の考えを深め、新しい情報を生み出します。

皆さんは全部で5紙(宮日、読売、毎日、朝日、日経)の新聞を読むことができます。地方紙から全国紙、経済に特化した新聞まで、特徴も様々です。それらの新聞を読み、自分が所属する委員会のヴェイジョンにつながる記事を選びます。

制限を加えられると記事を探しにくくなるように思えるかもしれませんが心配は不要です。委員会活動は私たちの日常生活や社会と密接につながっています。

それぞれの委員会のもつ役割を「社会」とつなげて考えてみましょう。

例えば「学習」であれば、学校教育の問題、学術的な研究の紹介、投書欄や読者の声欄に書かれた学校や人生での学びに関する記事などがあげられます。

「生活安全」であれば、交通安全や災害避難の記事、様々な犯罪から身を守るために必要な知識、自分たちの生活や暮らしをより豊かにするための制度や仕組み、生活情報なども含まれるでしょう。

ぜひ、学校生活を社会とつなげながら記事を読んでみてください。きつと、ハツとする発見やピンとくる記事に出会うことができますはずです。

問いが握る 探究へのカギ

記事を選んだら次は、「問い」を立てます。例えば、次のような記事についての「問い」としてどのようなものが考えられるでしょうか。

東大など調査 21年過去最高

「勉強意欲わかない」小中高生 54%

学年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
小学生	40%	42%	44%	46%	48%	50%	52%
中学生	42%	44%	46%	48%	50%	52%	54%
高校生	44%	46%	48%	50%	52%	54%	56%

コロナ禍 学校の楽しさ減

東大など調査 21年過去最高

「勉強意欲わかない」小中高生 54%

東大など調査 21年過去最高

「勉強意欲わかない」小中高生 54%

例えば、「コロナ禍か否かで学校の楽しさや学習意欲が変わるのはなぜだろうか?」「あなたにとつての楽しい学校、意欲のわく勉強とはどのようなものか?」「コロナ禍においても『学校の楽しさ』を向上させるために私たち生徒ができることは何だろうか?」などの「問い」が考えられます。

「問い」には「オープンクエスチョン」と「クローズドクエスチョン」の大きく二つの種類があります。

「クローズドクエスチョン」は「はい・いいえ」で答えられる質問のことです。

「クローズドクエスチョン」から自分の考えを深めるためには、「それはなぜか、それはどのようなときか、それはいつでも当てはまるのか」など、さらに質問をつけ加えていく必要があります。

「オーブンクエスチョン」は「はい・いいえ」では答えられない、いわゆる5W1Hを用いた質問のことです。

5W1Hとは、What(何)、Who(誰)、When(いつ)、Where(どこ)、Why(なぜ)、How(どのように)を指します。

考えを広げたり、深めたりする探究的な課題の場合は、5W1Hを用いたオープンクエスチョンが有効です。例えば、「18歳での成人に賛成か、反対か」のような相手の判断をたずねる場合においても、「賛成」、「反対」の答えで終始せず、「それはなぜなのか」とオープンクエスチョンをつなげること、思考はより探究的になっていきます。

また、「問い」には主語を設定します。「宮崎を魅力のある街にするためにはどうしたらよいか」という「問い」に「国が」、「大人が」、「若者が」、「中学生が」、「あなたが」など、「(誰)が」を設定すると、考えるポイントや視点、また、論点が明確になり、より考えやすくなります。さらに、主語が「あなた」に近づけば近づくほど、「問い」は自分事になっていきます。まさに、問いの作り方が探究の扉へのカギを握っているのです。

MILK TIME

5月9日、いよいよミルクタイムが始まります。様々な記事に出会い、問いを立て、仲間と対話し、新しい情報を生み出す体験を楽しみましょう。第一回目は中央委員会です。よろしくお祈りします。

私たちが「学び」を創る

新聞を使った探究の時間「ミルクタイム」が始まって2か月が経ち、これまでに、準備の時間を4回、そして、記事と問いについて考える「ミルクタイム」を中央、学習、生活安全の3つの委員会が担当をしてきました。

準備の時間では、全校が一齐に机の上に新聞を広げて活動が始まります。委員会のブレイクタイムや活動に沿った記事を探したり、思い思いに自分の興味や関心のある記事を読んだりしながら、新聞に親しみます。ピンときた記事は、タブレットで撮影して、スクラップし、集めた記事をもとに、「問い」を作ります。



ミルクタイム準備の時間の様子

みんなが考えなくなる「問い」を生み出すこと、これが、ミルクタイムの活動の肝であり、また、最も思考力が求められる部分でもあります。

3年D級の学習委員会は4月15日付の宮崎日日新聞に掲載された社説『高校国語教科書検定 論理も文学も学べる工夫を』の記事を取り上げ、「あなたが教科書をつくる立場なら、どのような内容を入れたいですか?また、その教科書を使う生徒はどう思うか考えよう。クラスの仲間と意見を共有しよう」という問いを立てていました。

自分たちが普段使っている教科書をつくるという立場を問いに設定することで、日頃、教科書を使いながらふと考えてきた「こんな教科書があったらいいな」「こんなことが学べる教科書があるといいな」といった当事者の思いと、記事から得られた教科書検定に関わる様々な知見を融合させて、多様な視点から「問い」について考えることができる工夫がなされてきました。

この「問い」に対する考えとして、自分のこれまでの経験やこれからの自分の生き方と関連付けて記述している生徒がいましたので2つ紹介します。

教科書をつくる立場なら、知識はもちろん入れたいけど、同じくらいに視点や考え方も入れたいなと思う。知識は、受験の時に必要になるし、覚えるべきこと(競争のことなど)があるため、ある程度必要だと思う。視点や考え方については、今後世界が進化していくって情報が多くなっていく。その時、判断しきれなかったり、AIが相手になっていくと相手の気持ちや考えにくくなっていくかもしれない。その時、視点が教科書の隅っこにあったり、考えてみようとかすると柔軟に物事を考えられるかもしれない。実際に、社会の時間をうけて実感したため、教科書にも入れてほしいと思った。

私が教科書をつくる立場だったら『社会の実態』みたいな単元を入れたい。この単元では、社会(働く場)ではどんな人間関係があるのか、どう関わればいいのか、どんな悩みを抱えている人がいるのかを学べる単元してみたい。就職できたのに大学と会社とのギャップでつらい思いをしているというのを聞いたことがある。だから、今のうちから『社会の実態』を知っておくと社会に出たときに自分のやりたい事を追求できるのだと思う。

この2人の「考え」はこの記事と「問い」があったからこそ、産み出されたものに他なりません。

また、仲間と意見共有をした後の、別の生徒の振り返りには次のような記述がありました。

本来、勉強というのは暇なときにやるもの。なのに、勉強が今後の人生を左右するのはいつも違和感があった。古文の読解より相手の発言の意図を読解したいし、方程式より、自分の人生の方程式を解きたい。

普段の授業では、先生から与えられた教材や「問い」をもとに考え、学ぶことが多いです。

しかし、ミルクタイムは「記事」という教材も「問い」も生徒であるみなさん自身が選び、考えた、まぎれもなく、みなさん自身で創り出した「学び」であり、仲間との対話を通して情報生産した「学び」です。

ミルクタイムは自分たちで「学びを創る」時間でもあるのです。

MILK TIME

第一クールも折り返し地点です。どんな記事を選び、どんな「問い」をつくるか、みんなの探究心に火をつける、そんな「学び」をミルクタイムで創造してみよう。